

# 小学校第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

## 単元名：「ともに生きる～あたたかいまちをめざして～」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 岡 彩未

- 1 日 時 令和6年9月20日（金）5校時  
 2 場 所 4年3組教室  
 3 学年・学級 第4学年3組（30名/男子16名・女子14名）



### 単元について

本単元は、第4学年の総合的な学習の時間の中で、「福祉」の学習として49時間扱う中の後半の25時間である。1学期には、わたしたちが暮らす町には、どのような困り感（註）を抱える人がいるのか調べ、更に詳しく学びたいという児童の思いから、熊野町社会福祉協議会と連携し、目の見えない方・耳が聞こえない方・足が不自由な方・高齢者・妊婦さん等の疑似体験を行った。これらの学習から、年齢や立場によって、思いや願いの違いがあることを知ることができた。本単元では、1学期に学習したことをもとに、それぞれの年齢や立場の人たちが過ごしやすくするため（ユニバーサルデザイン：以下UDと表記）には、どのような工夫が必要か考えていく。そして、学校内から学校外へと視野を広げる中で子供達にとって身近な様々な人が使う公園にスポットを当て、誰もが使いやすい公園作りに取り組む。公園が、誰にとっても使いやすい工夫として何ができるか、地域で暮らす様々な人のために自分たちに何ができるのか等、課題の解決に向けて思考する場面を設定し、相手意識や目的意識を明確にしなが、主体的・協働的に学習していけるようにする。

そして、この学びを通じて、様々な年齢や立場にある人々の気持ちを想像し、自分には何ができるかを考えて行動していくことが、誰にとっても過ごしやすい「本当のUD」であると、学ぶことができるようにする。

### 児童の実態

本学級の児童は、1学期に「みんなが住みやすい町をめざして」の学習を行った。目の見えない方・耳が聞こえない方・足が不自由な方・高齢者等の疑似体験を行う中での気づきや、新たな発見を友達や担任に伝える児童は多い。そして、日頃自分達が気にしていなかったことに困り感（註）を感じている方がいるということに気付いていた。

次に提示する表は、本学級で本単元導入前に行った総合的な学習の時間に関する児童の意識調査アンケートの結果（令和6年8月26日実施/28名）である。

質問内容	肯定的回答		否定的回答	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
① 「総合的な学習の時間」は好きですか。	13人	14人	0人	1人
② 「総合的な学習の時間」の好きなところはどこですか。	・みんなできいっしょに考えたり、話しあうことで考えが深まったりするところ ・自分の意見を出すことができる場所 ・知らなかったことが分かる場所 ・助けになろうと思える場所 など			
③ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	9人	13人	6人	0人
④ 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えていますか。	17人	9人	2人	0人
⑤ 1学期に学習したことをもとに、地域や学校、教室の中で、気になるところはありますか。	3人	8人	2人	15人

⑥ ⑤の場所や理由は何ですか。

・通学路にあるみぞが、歩けるところだったらいいと思う  
・せまい通路は通れる人が少ないから、広くした方がいいと思う など

本学級の児童は、「『総合的な学習の時間』は好きですか。』の質問に対して、肯定的な回答が96%であった。その理由は、調べ学習や体験学習によって、新たな発見をし、友達と話し合い、試行錯誤することを楽しんでいるというものであった。しかし、否定的な回答をしている児童の中には、学んだことを言葉にすることに苦手を感じている児童もいることが分かった。

また、「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。』の質問では、78%の児童が肯定的な回答をしている一方で、自ら進んで課題発見・解決することが苦手と感じている児童もいる。

そして、「学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えていますか。』という質問に対して、92%の児童が肯定的な回答であった。

最後に、1学期に学習したことを基に、「地域や学校、教室の中で気になるところはありますか。」という質問に対して、肯定的な回答が35%であったのに対し、否定的な回答は61%であった。このことから、1学期に学習した様々な立場から、自分の身近な地域や学校、教室の環境について見ることでいえないことが分かる。

## 単元の指導および協働的な学びの場の設定について

**研究主題** 自分で学びを進める児童の育成 ～学びを振り返る活動を通して～

本単元の課題設定の場面では、1学期に学習したことを基に、学校や教室にスポットを当てて、様々な年齢や立場の人たちが過ごしやすい場所について考えていく。その後、学校から地域に視野を広げ、子供たちがよく関わる公共施設として公園を取り上げ、「誰もが使いやすい公園」とはどのような公園か、考える活動を行う。実際に、現在計画されている「筆の里創造の丘公苑（仮）」を誰もが使いやすい公園にするための案を考える活動を行うことを伝え、意欲付けたい。その過程で、整備がされており、UDが施された「ふれあい公園」と、整備のされていない公園を見学し比較することで、様々な年齢や立場の人たちにとって過ごしやすい公園とは何か、検討していきたい。

情報の収集や整理・分析の場面では、様々な場面で「本当のUDになっているか」と問いかけ、自分たちの考えに固執しないで色々な立場から考えられるようにする。社会福祉協議会や都市整備課、地域住民との連携を図りながら、アンケート調査やインタビューをする等の場を設定していきたい。

まとめ・表現の場面では、自分たちが考えた「筆の里創造の丘公苑（仮）」の案を、都市整備課の方に提案する活動を行う。また、他学年や地域の方々に、自分達の取組の成果や学んだことについて、効果的な伝え方を考えて、伝える活動も行っていきたい。その際に、友達と助言やアドバイスを伝え合う場面を設定することで、協働的な学びのよさに気付いていくことができるようにする。

本単元を通して、随時振り返りの場を設定し、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」について考えることで、次の学びへの意欲をもたせたい。また、友達の振り返りを紹介することで、自分の考えをより深めていくことができるようにしていきたい。

## 単元の目標と評価規準

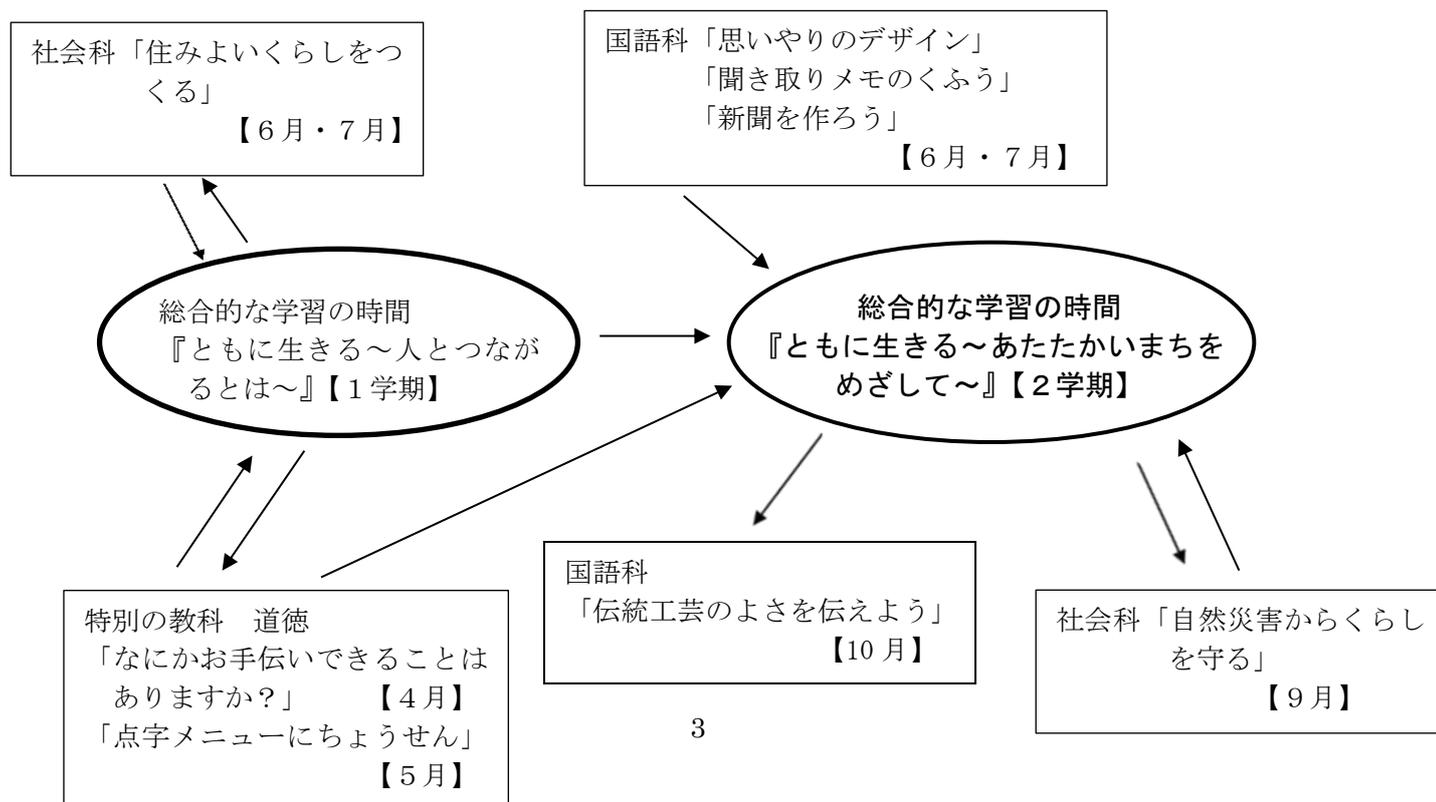
### 【単元の目標】

UDの視点から、様々な人の立場に立って、UD公園をつくるためにできることを考え、それらを発信し、みんなが住みやすい町づくりをしようという思いをもち、自分にできることを見付け、行動することができる。

### 【評価規準】

知識・技能 分かる・できる力	思考・判断・表現 協働する力	主体的に学習に取り組む態度 振り返る力
①学校や地域には、誰もが使いやすいUDがあることを知るとともに、それが自分たちの生活や地域でくらす様々な人の生活に関わっていることを理解している。 ②アンケートやインタビューによる調査を、目的や場面に応じて実施している。 ③誰もが使いやすいUDの重要性への認識の高まりは、UDと自分たちの生活や地域で暮らす様々な人の生活との関連を、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①誰もが使いやすい公園の在り方について、これまでの総合的な学習の時間における調べ学習を基に課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通している。 ②UDや誰もが使いやすい公園の在り方をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選択し収集している。 ③誰もが使いやすい公園作りに向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の考えを比較したり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ④学習活動全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、これからの生き方について自らの思いや考えを表現している。	①活動を通して、自分や地域の様々な人々の生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。 ②調べ学習や疑似体験を通して得た知識や、自分と異なる友達の考え、地域の人々の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、公園のUD化に向けて粘り強く取り組もうとしている。

## 他教科等との関連



## 指導と評価の計画

	学習内容『ともに生きる～あたたかい町をめざして～』 (時数：25 時間)	主たる評価規準
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○身の回りにある「みんなが使う場所」のUDについて調べる。(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各視点から、学校や教室の問題点を見付け、学校や教室をUD化するためにはどのような取り組みが必要か考える。</li> <li>・学校以外の公共施設に注目していく中で、「公園」に着目し、「誰もが使いやすい公園(UD公園)」を作るためには、何が必要か各視点から考える。(本時)</li> <li>・「ふれあい公園」を見学し、UDを見つける。</li> <li>・近くの公園「道垣内公園」を見学し、公園の現状を把握する。</li> <li>・「ふれあい公園」と「道垣内公園」の様子を比較することで、「なぜ」をたくさん見付けて、探究的な学びに向けての意欲を喚起する。</li> </ul> <p>○地域の公園のUD化に向けての見通しをもち、自分たちの力ではできないUD、自分たちで取り組めるUDについて検討する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「UD公園」を作るために何を知るべきか、都市整備課にどんなことを伝えていくのかについて考える。</li> </ul>	<p><b>①知識・技能</b> 学校や地域には、誰もが使いやすいUDがあることを知るとともに、それが自分たちの生活や地域で暮らす様々な人の生活に関わっていることを理解している。</p> <p><b>①思考・判断・表現</b> 誰もが使いやすい公園の在り方について、これまでの総合的な学習の時間における調べ学習を基に課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通している。</p> <p><b>①主体的に学習に取り組む態度</b> 活動を通して、自分や地域の様々な人々の生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。</p>
二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>○UD公園を作るために必要な情報を、アンケートやインタビューを用いて集める。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園についての疑問</li> <li>・公園に対する願い (小学生、地域の方、社会福祉協議会、都市整備課)</li> <li>・利用者状況(保護者、小学生、福祉協議会)</li> <li>・調べた情報をまとめる。</li> <li>・情報を交流し、公園をどのようにしたらUDレベルがあがるのか(みんなが使いやすい公園になるのか)UD案について話し合う。</li> </ul>	<p><b>②知識・技能</b> アンケートやインタビューによる調査を、目的や場面に応じて実施している。</p> <p><b>②思考・判断・表現</b> UDや誰もが使いやすい公園の在り方をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選択し収集している。</p>
三	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○収集した情報をもとに、クラス間の交流を行う。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報の分析を行い、整理する。</li> <li>・自分たちの情報と1組・2組の内容を比較し、自分たちに生かせるものを見付け、活用する。</li> </ul>	<p><b>③思考・判断・表現</b> 誰もが使いやすい公園作りに向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の考えを比較したり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p><b>②主体的に学習に取り組む態度</b> 調べ学習や疑似体験を通して得た知識や、自分と異なる友達の考え、地域の人々の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p>

四	<p><u>まとめ・表現</u></p> <p>○整理・分析した情報をもとに、「筆の里創造の丘公苑（仮）」を作るために、行動する。（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識して、伝えたいことをまとめる。</li> <li>・役場の都市整備課に、自分達の考えた「筆の里創造の丘公苑（仮）」についてプレゼンテーションをする。</li> <li>・都市整備課の方のお話を聞いて、学習を振り返り、自分たちの活動を更に改善したり深めたりできることについて考え、行う。</li> <li>・他学年や地域の方々に、自分たちの取組の成果や学んだことについて、伝える。</li> <li>・公園のみでなく、地域の行事や施設にも目を向け、自分にできることを考える。</li> <li>・学習活動全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、これからの生き方について自らの思いや考えを表現する。</li> </ul>	<p><u>③知識・技能</u></p> <p>誰もが使いやすいUDの重要性への認識の高まりは、UDと自分たちの生活や地域で暮らす様々な人の生活との関連を、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p> <p><u>④思考・判断・表現</u></p> <p>学習活動全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、これからの生き方について自らの思いや考えを表現している。</p> <p><u>③主体的に学習に取り組む態度</u></p> <p>課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、公園のUD化に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

## 本時の学習（5/25 時間）

### 本時の目標

みんなが使いやすい公園を作るためには、何が必要か考え、自分とは異なる意見を取り入れたり、新たな価値に気付いたりして、公園案を考えることができる。

- (1) 準備物 調査で用いた資料、ワークシート、教室掲示物
- (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
<b>1 課題の設定</b>		
○前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが使いやすい学校や教室にするために何が必要か、考えたことを振り返る。</li> <li>◎写真などの具体物を見ながら、前時までの活動を振り返ることができるようにする。</li> <li>・児童にどんな公園が好きか問い、その公園は、地域の人たちも使いやすい公園か考えさせる。</li> </ul>	
<b>2 めあての設定</b>		
○本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に「筆の里創造の丘公苑（仮）」の計画に携わることができることを伝え、意欲付けるようにする。</li> </ul>	

【めあて】「誰もが使いやすい公園」とはどんな公園か、考えることができる。

### 3 自分の考えをもつ

○グループごとに、それぞれの立場で、公園案を考える。

【予想される公園案の例】

- 〈目が見えない・耳が聞こえない〉
- ・目が見えないと、ぶつかってしまう。
- 点字ブロック
- ・耳が聞こえないと、放送が聞こえない。
- 文字で分かるようにする。
- 〈高齢者〉
- ・段差があると上り下りしにくい。
- スロープをつける。
- 〈妊婦、子連れ〉
- ・ずっと立っておくのがしんどい。
- ベンチを設置する。
- 〈車いす〉
- ・段差があると通れない。
- スロープをつける。

- ・それぞれの案が、誰の何のための案であるのか、明確にするよう伝える。
- ◎文字だけでなく、絵で表してもよいことを伝える。

### 4 協働的な学びの場

○各グループで話しあった公園案を、全体で発表する。

○各グループからの発表について、UDの視点で見直す。

- ・各グループで話し合った公園案は、どのような理由でその案になったのか、明確にするよう伝える。
- ・それぞれの公園案が、UDの視点である「誰もが使いやすい」になっているかどうか、全体で検討する。

主たる問い

本当に「誰もが使いやすい公園」になっている？

### 5 本時のまとめ

○UDの視点でまとめを行う。

- 1つの視点(自分のグループ)のみでなく、他の視点(他のグループ)に立って「誰もが使いやすいように」と考えることが、大切であるということを伝える。

### ★6 本時の振り返り

○本時の学習の振り返りを、ワークシートに書く。

〈予想される児童の振り返り例〉  
わたしは車いすグループでスロープが必要だと思ったけど、高れい者やにんぷさんにも必要だとわかった。色々な人の立場に立って、誰もが使いやすい公園案をつくることができた。

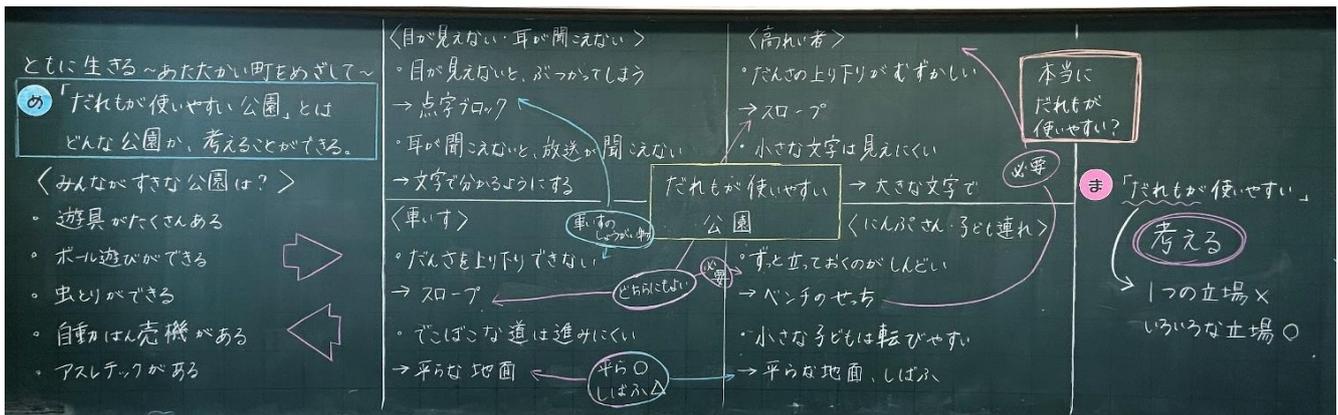
- 本時の学習では、公園案を様々な立場に立って考えられたか、振り返ることができるようにする。
- ◎自分の意見と友達の意見を比べたり、本時を行う前と後で、自分の考えが変わったりしたかどうかなどを、問いかけるようにする。

①思考・判断・表現

誰もが使いやすい公園のあり方について、これまでの総合的な学習の時間における調べ学習をもとに課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通している。

(ワークシート)

## 板書計画



## 参考文献

- ・公園のユニバーサルデザイン研究チーム（2018）『公園のグッドプラクティス 新しい公園経営に向けて』鹿島出版会
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』東洋館出版社
- ・田村学（2018）『深い学び』東洋館出版社
- ・文部科学省（2020）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』アイフィス

### 【参考 Web ページ】

- ・「みーんなの公園プロジェクト ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド」  
[https://www.minnanokoen.net/pdf/ud\\_koen\\_guide\\_201805.pdf](https://www.minnanokoen.net/pdf/ud_koen_guide_201805.pdf) （最終閲覧日 2024年7月24日）
- ・「Life Hugger ユニバーサルデザインの遊具とは？誰でも利用できて、楽しい工夫がいっぱい！」  
<https://lifehugger.jp/column/universaldesign-park/> （最終閲覧日 2024年7月24日）

（註）「困り感」は、株式会社学研ホールディングスの登録商標 4893317 である。